

平成 26 年度 第 3 回 理事研修会 会長挨拶

あいにくの悪天候の中お集まりいただきありがとうございます。本日の天候を見ながら想定外における安心・安全を意識した学校づくりの在り方を考えさせられました。特に、校長がいない時、教頭や教務が校長と同じような判断ができるような体制の維持と対応の仕方、しかもその判断内容が保護者の理解が得られるようなものになり得ているかなど、危機管理への対応の重要性を感じたように思います。



そういう意味からも、本大会も重要ではありますが、学校の安心・安全を最優先した対応の中で行うようにしたいと思いますので、各地区の会員の方々へもその旨をお伝えいただければと思います。

さて、そのような状況の中、北海道小校長会教育研究日高大会の開催を明日に控え、何かとご多用にもかかわらず、第3回理事研修会にご出席いただきありがとうございます。

この間、8月8日には文教施策懇談会・各課懇談会、7月29日の胆振地区を皮切りに、これまでいくつかの地区において実施いたしました地区別教育経営研修会など、理事の皆様をはじめ全道の会員の皆様のご協力・ご尽力に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

今後の道小が取り組むべき課題について、三点お話しさせていただきます。

一点目は、教職員の定数改善にかかる動きについてです。

平成27年度の予算編成に向けた文部科学省の概算要求が発表されています。

それによりますと、今年度は、2,760人の定数改善を計上し、加配措置ではなく基礎定数の改善を目的として、義務標準法の改正を予定しているとのことです。

今回示した概算要求では、これからの10年間で、授業革新にともなって人を配置するとしています。これは、課題解決型の授業で、今までも行ってきた問題解決型の学習とほぼ同じ内容ですが、きちんと行われていなかったということから、TTや専科教員として配置し、課題解決型の授業を工夫改善することに人を付けるということです。同時に小学校における専科指導の充実ということで、専門性の高い教科を専科教員による指導で行うということです。

もう一つの大きな流れとして、チーム学校という言い方をしています。これは通常の教員だけで学校を運営していくのではなく事務職員、栄養教諭、学校司書などの専門的スタッフを導入して、担任が子どもと接する時間を増やそうという発想です。

35人以下の少人数学級については、今回まったく触れられていませんので、文科省として大きく方向転換をしたと言えそうです。

10年間で、31,800人の定数改善を行うとしていますが、児童数の減少に伴う自然減は、10年間で4万人が見込まれています。実質8,000人程度の教員の減少がこの編成でも起こってくることとなります。自然減による教員の減少を埋めるように教職員の人的な確保を図ろうというのが今回の文科省の概算要求の趣旨とのこと。

全連小では、今後、教職員の定数改善に関して、少人数学級を望む声が多いことから今まで通り要望していくか、文科省のように方向転換して、いろいろな人材を配置するようにしていくかなどについて検討していくことにしています。今後、副会長・理事の皆さまのご意見をいただきながら、道小としての考え方をまとめ、全連小とともに要望活動を展開してまいりたいと思います。

この他に、特別支援やいじめ防止など、個別の教育課題への対応、学校規模の適正化への支援として、統廃合への支援も行うし、統合できない学校についても支援を行うとしています。複式学校編制の標準を引き下げるという嬉しい内容もあります。また、土曜日の教育活動の推進は総額22億円で、土曜授業は1億円。残りの21億円が土曜学習に充当されています。土曜授業よりは、土曜学習に力点を置いていこうとしている文科省の考えをうかがうことができる配当になっています。

二点目は、今後の学力向上の取組についてです。

今回の学力学習状況調査の結果は、全国との比較において平均正答率の差が縮まりました。この結果は、各地区校長会による組織的な取組や各学校における学校改善の取組の成果として、高く評価できると思います。

ある識者は、「都道府県との平均点の優劣はほとんど無視していい小さな差だ。他都府県との平均点の優劣を気にするような目標の立て方を止め、子どもたちが主体的に学習に取り組めるような教育に立ち戻るべきだ。」と話していました。研修を通じた授業改善による子どもの意識改革や「総合的な学習」の取組の効果など、一見すると「数値学力」というものに直結しない内容が、実は、「数値学力」の定着に大きな役割を果たしていることについて、今回の調査結果をもとに多く報道されていました。

道小としても、全国学力・学習状況調査をもとに精緻な分析の上、学校改善、授業改善、生活習慣の改善を図ることが重要であると呼びかけ、各地区校長会と連携しながら取り組んできたところです。

それは、基礎・基本を確実に定着するとともに、豊かな人間性や社会性を涵養することが、一人一人の子どもに義務教育終了段階で自らの進路を切り拓く力を身に付けさせることであり、10年後、20年後、豊かにいきいきと生活できるための礎を築くことになると考えているからにほかなりません。

そういう考えから、大阪府茨木市教育委員会が考案した、「ゆめ力」「自分力」「つなぎ力」

「学び力」という四つの力をもとにした分析方法もその一つであると考え、その方法に工夫を凝らした分析方法を考えてみました。

この分析方法では、茨木市と同じように、児童質問紙の項目を可視化するために、平均値を出す方法を用いています。また、それぞれの質問項目毎に全国との比較を試みました。

後ほど、詳しくお話しさせていただきますが、子どもたちの生の声をもとに、子どもの心のもち方や物事に取り組む姿勢などについて、学校の事実を精緻にとらえることが可能になると思っています。同時に、目の前の子どもを事実を全教職員で共有し、学校改善や授業改善、生活習慣の改善の取組に生かすことができると考えていますし、このことは、茨木市教育委員会でも主張しているように、個々の子どもの「数値学力」の定着・向上へとつながることになると考えています。

学校の課題分析の一つの方法として参考にされ、もし活用いただきましたならば分析結果や分析にまつわる改善策などについて、事務局に寄せていただき、今後、一層よりよい分析方法を検討していくことができればと思っております。

調査結果をどのように自校の学校改善、授業改善に結び付けるかについて保護者に示すことが学校としての責任でありますし、子どもの姿に反映させてこそ意味を持つことを銘記したいものです。

最後に、全国学力・学習状況調査の市町村別結果公表にかかわってお話しさせていただきます。

実施要領で設置者の同意が得られた場合には道教委による公表が可能になったことから、8月26日の報道にありましたように、道教委では、「レーダーチャートによる領域別結果」「結果の分析」「改善策」をA4版一枚にまとめた内容で同意を得、公表したいとしています。

参加児童が300名から400名を超える市町村では、平均正答率も載せることが望ましいという内容となっています。9月4日に各市町村教委に、同意を求める通知が発出されたとのことです。同意が得られた市町村については、11月に公表を予定している北海道版の結果公表の冊子に掲載するとのことです。

各学校の公表については、市町村教委と学校とで相談して対応することが望ましいとしています。

数値を明らかにして競争原理を用いて、学力向上を図ろうとすることは、この調査の本来の目的から逸脱していることについて、多くの識者が指摘しているところです。

結果の公表にあたっては、参加した子どもを第一に考え、その子どもたちに負の影響を及ぼす可能性があることについては十分配慮するという姿勢を、子どもを育てる役割を担っている大人として持ちたいと思うところです。

今後、市町村教育委員会から校長会に結果公表にかかわる相談があると思っておりますので、その際には、それぞれの地区の実情を踏まえた適切な対応をお願いいたします。

後ほど河原井局長より報告がありますが、広域人事に関する要項の見直し案が提示されました。その内容を見ますと、今まで訴え続けてきた広域人事に関する現場の声がかなり反映された内容となっております。先月、全道の1/3の学校にお願いいたしました学力向上の取組に関わるアンケート調査についても、調査結果の分析等を基に、現場の声が道教委に届くことを信じ、要望や意見として積極的に伝えていきたいと思っています。今後も各地区の取組や道小の取組について忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思います。宜しくお願い致します。

いよいよ、日高大会が明日に迫ってまいりました。まずもって、久保田実行委員長を先頭に大会の成功に向けて周到な準備を進めてこられた日高地区長会の皆様に、心より感謝申し上げます。

今大会は、昨年度より行ってまいりました、参画型の分科会をより一層充実させる大会であります。

明日からの二日間は、「鋭い時代感覚と強い使命感をもち、共に行動する校長会」の研究大会にふさわしく、熱意と品格にあふれた二日間になるよう、参加されるすべての会員の皆様のご協力をお願い致します。

この日高大会の成果と課題は10月14日に予定されている大会運営研修会で協議され、今後の道小教育研究大会が進むべき方向性を含めて、第四回以降の理事研修会において検討していきたいと考えています。

本道教育は、依然として大変厳しい状況ではありますが、今後の道小の活動の一層の充実に向け、副会長・理事の皆様のご協力を重ねてお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日の第三回理事研修会、よろしくお願い致します。